魅力あるSS業界を目指して

変化する環境に挑戦を

ガソリンスタンドを車好きの聖地に

石油・エネルギー業界アナリスト
垣見裕司
Kakimi Yuji

垣見裕司（かきみ・ゆうじ）。東京都千代田区麹町生まれ。成蹊大学工学部経営工学科卒業後、垣見油化に入社。石油ガス部長、取締役石油部長、常務取締役、代表取締役専務を経て、2015年、代表取締役社長に就任。01～02年、09年エネ庁研究会委員、10～13年トヨタ水素スタンド委員会・14～15年東京都舛添知事主催「水素社会の実現に向けた東京戦略会議」委員　2014～2015等も務める。96年、業界に先駆けて開設したHPは、アクセス数累計400万件を超える人気。毎月、鋭い切り口と明快な論旨で業界の今を伝える。高校時代は硬式庭球でインターハイ出場。大学時代には中高の監督を務める。趣味はゴルフ、囲碁（七段）

私が月刊ガソリンスタンドで楽しみにしている企画は多々ありますが、本音でお話するとその一つは意外にも「私のクルマ自慢」です。実は私も車好きの一人で若い頃はちょっと目立つ車にも乗っていました。

その反面。今の若い人達は車に興味が無いのか持ちたくても持てないのかは分かりませんが、車を持つ前提の免許取得率も減っているように思います。

それが本当ならSS業界の不況や人手不足の原因の一つかも知れません。そんな訳で今月は若い方にどうしたら車に興味を持って頂けるか、どうしたら車好きの方にSSに来てもらえるかを考えてみたいと思います。

共通点は愛車へのこだわり

今月の執筆にあたり過去3年間分の「私のクルマ自慢」を改めて拝見しました。共通点は、決して新しく買った車を自慢されているのではないのです。本誌に掲載されている例は、むしろ低年式車が多く、分かっていない人からみれば、何でこんな古い中古車に未だに乗っているのと思われるような車です。

商品購入の場合、一般的に顧客満足は買った直後が一番高く、そこから飽きたりして徐々に低下していくのが普通だからです。

でも皆さんの「クルマ自慢」を見ると買った時のままは少数で、マフラーを変えたり、ホイールを変えたり、インチUPしたり、軽量化したりと少しずつ進化し続けているのです。

勿論、車にかける予算は給料と相談しながらでしょうが、手を入れる度にその満足感は少しずつ向上していき、またそれが楽しいのだと思います。

ところで当社の生命線は地域NO1の顧客満足ですが、それを実現する為の社内標語をご紹介したことがあると思います。「初めて買った自分の愛車の如く、お客様の車を愛し、安全を願い、感謝し感動されるサービスを目指そう」です。欲しくて欲しくて仕方がなかった自分の車。そして初任給から少しずつ貯金して、新車は無理としても、前から欲しかったこだわりの車を買ったその時の気持ちなら、誰でも心から共感するだろうと生まれた自慢の標語です。

ところが時代が変わりました。SSで働く正社員ですらも、維持費等の関係なのかは分かりませんが、車を持っていない人が増えて来ました。残念ながら若者の興味の中での車の順位は、確実に落ちているのです。

そこで車を持っていない社員には、とにかく自分の一番大切な、例えばバンドをやっているならヤフオクで買ったギブソンのギターを修理に預ける時の気持ちでお客様の車をお預かりして下さいとお願いしてきました。

若者の車離れを表す数字

昭和55年以降の若者の人口と免許保有率の推移　　単位：千人

年齢別	和暦	昭和55年	平成2年	12年	22年	26年
免許数	西暦	1980年	1990年	2000年	2010年	2014年
人口総数		117,060	123,611	126,925	128,057	127,083
16歳以上	人口	87,527	99,214	105,516	108,809	108,471
	免許者数	43,000	60,909	74,686	81,010	82,076
	保有率	49.1%	61.4%	70.8%	74.5%	75.7%
20～24才	人口	7,841	8,800	8,421	6,426	6,203
	免許者数	5,379	7,446	7,025	5,208	4,796
	保有率	68.6%	84.6%	83.4%	81.0%	77.3%

皆様もご存じの通り、日本の総人口は、2008年の1億2808万人をピークに緩やかに減少しています。しかし幸いにも運転免許保有者数そのものは、2015年末で8215万人（前年比100・1％）と何とか横這いを保っています。

しかしその年齢構成は大幅に変化してしまいました。例えば2000年末の65才以上は、720万人でしたが、2010年末には1275万人と555万人も高齢者が増えたのです。

その反面、未来を背負う20才から24才までの若者は、同10年間で702万人から520万人へと大幅に減ったのです。

実は当家の話で恐縮ですが、大学1年生になった娘が、夏休みから秋にかけて教習所に行き運転免許を取得しましたが、同じ大学1年生の運転免許のおよその取得率を聞いてみたところ、約2割しかないとのことでした。

私の時代なら、高校3年生が18才になったら、直ぐに教習所に行ったものです。2月生まれの私でさえ、大学推薦が決定した直後に通い始め、高校卒業までに免許を取りました。

その意味で昨今の若者の免許取得率はどうなのか。若者人口を分母とする免許保有率とその推移を調べてみました。有難いことに本誌の過去の別冊号データ頁から分かるのです。

20～24才までの絶対人口と、同年代の免許取得者から保有率を算出して、その推移を纏めたものが上記の表です。

全年齢での免許保有率は、1980年末の49％から2014年の76％まで確実に上がっていますが、若者に限れば、バブル時代の1990年頃をピークにむしろ下がっているのです。

その低下は2010年までは緩やかなのですが、昨今の5年で急激に下がったのは心配です。

この人口減、高齢化と若者減、若者の免許保有率の低下で、自動車業界と我々ガソリンスタンド業界の未来は大丈夫なのか。本当に心配になってきました。

でも車好きの一人として、今月は、本音でカミングアウトしてその対策を考えてみましょう。

若者にとっての車の魅力

高校3年生の頃の私に戻って車の魅力を改めて考えてみます。

まずカッコ良くスポーティー。女の子の目を引ける。ドライブにも誘える。そのドライブは、最初は2対2のカップル（アベックなどという言葉もありましたが、今は死語でしょうか）かもしれませんが、それが2人だけのドライブになったら、もう間違いなく立派なデートです。

そして車が「個室」であることも魅力です。最初はラジオだけかもしれませんが、カセット付になりステレオになり、スピーカーの数も増えてくれれば、もう動く個室カラオケです。

また公共の場でもある電車に乗るなら洋服も少しは考えないといけませんが、車なら自分の部屋が動くだけなので、そんなに気にしなくてもいいのです。

もっとも母親からは「事故った時に恥ずかしいから少しはまともなカッコで行きなさい」と叱られたこともありました。

結局「2人だけのドライブデート」まで実現したのは、大学4年間で片手でおつりが来る程度ですが、それでも今では懐かしい、甘酸っぱい想い出です。

私の好きな場所は東京から第三京浜を通って横浜の山下公園や港の見える丘公園でした。

この時カーステレオから流れる曲は、ユーミン（荒井由実）の「海を見ていた午後」。

さらに足を延ばせば箱根や芦ノ湖で、芦ノ湖スカイラインは本当に素晴らしい景色でした。もっともこの辺まで来ると日帰りか一泊かが微妙なので、別の苦労やドキドキもありました。

一方自宅近くの中央高速なら相模湖や奥相模湖。少し遠い河口湖に行く途中の目の前に広がる巨大な富士山は圧巻でした。

中央高速を走る時に流れる曲は、やはりユーミンの「中央フリーウェイ」。さて百聞は一見に如かず。私の若かりし頃の自慢の愛車写真をお見せします。昭和46年式の箱型スカイライン。流石に「R」ではありませんが、2000GTの2ドアです。

当社社員にもいた走り屋

10年くらい前までは、当社社員にも走り屋はいました。今では所長世代ですが、結婚して大人しくというか、家族も出来てファミリーカーへ無事卒業していきました。でも走り屋の遺伝子は忘れず持っているようです。

彼らに聞けば、SSが終わった後○○峠や○○ふ頭に走りに行ったとのこと。知らない大人からは暴走族と一緒にされてしまうのが辛いのですが、暴走族と走り屋が全く違うのは、読者の皆様もご存じの通りです。

SS勤務上のルールとしては、SSの営業時間中には、SS内に自分の車は置くな触るなということ位です。私としては、お客様満足第一以外は、大目に見てきたつもりです。

お客様にも走り屋はいました。「自分でやるから」とおっしゃっても辛いのですが工具等の貸し出しはしないのが大原則です。

私も含め、社員一同大事故もなく卒業できたのは感謝です。

「頭文字D」をご存じですか

読者の皆様でこのタイトルを見てピント来る方はどのくらいいらっしゃいますか。簡単に説明すると1995年から2013年まで全719話、ヤングマガジンに連載された走り屋を主人公とする大ヒット漫画です。

私はテレビアニメ化された時にちらっと見て知っていた程度でしたが、今年になり復刻盤的な映画「新劇場版 頭文字D Legend1 覚醒 Legend2-闘走」をJCOMでたまたま見て改めてはまってしまい、その後TSUTAYAのお誕生日割引旧作1本50円で全82話を僅か1カ月で見直してしまった程の名作です。

内容を一言で説明すると、ガソリンスタンドでアルバイトする2人の高校3年生が、毎週末の夜、群馬の秋名山の峠道を攻める走り屋の話です。その2人が、走り屋として、人間として、成長していくなかで、友情あり、恋愛あり、師弟愛あり、親子愛ありの最高の作品です。

物語はSSが舞台

このアニメを是非見てほしい理由は、2人の主人公がSSでバイトし、高校を卒業後に1人はSSに正社員として就職するというSSを職場とした数少ないドラマであることです。

また主人公の父親もSSの50代の店長（社長かもしれません）も元走り屋です。特に店長は2人の若者に理解があり、厳しくも温かく見守る職場師弟愛が、何とも言えないのです。

またSSの他の従業員も皆走り屋です。「秋名スピードスターズ」というチームの仲間で、若い2人の良き先輩であり、車のこと整備のことを色々教えてくれるのです。

世の中には数多くのテレビドラマや映画があります。人気のCAの仕事なら堀ちえみのスチュワーデス物語や上戸綾（旧作は紀比呂子）のアテンションプリーズ。パイロットなら木村拓哉GOODLUCKや、女性パイロットを目指す堀北真希のドラマ、ミスパイロット。また海上保安庁の海難レスキュー隊を描いた「海猿」などは、その放送後、海上保安庁への就職希望が増えたと聞いています。

しかしSSマンの名ドラマは皆無に近いのです。印象に残っているのは倉本聰さんの「北の国から」です。ドラマとしては名作ですが、主人公の「純」が北海道の富良野から逃げだすように東京に来た時、最初日本石油のSSで働いていました。

しかし都会の誘惑に負けて、生活は荒れ始め、彼女を妊娠させ、挙句の果ては事件まで起こしてしまうのです。SS業界の私としては、とてもお勧め出来るドラマではありません。

理想としては、JXさんにスポンサーになって頂いて、SSマンになりたくなるような人間味あふれるSSマンの成長ドラマを制作してほしいと思います。

でもテレビドラマは、質の高い名原作があって初めて成立する話なので、それを言うなら「垣見が小説を書いてからにしろ」と返り討ちに合いそうです。

SSを車好きの聖地に

今月は私の若かりし頃の車への思いや懐かしい写真をご紹介しましたが、そのきっかけは間違いなく4月号のクルマ自慢で、その車こそテレビアニメや映画「頭文字D」の主人公の車、トヨタスプリンタートレノAE86、通称ハチロクなのです。

昭和60年式なので知らない方には、何でそんな古い車に乗っているのと思うかもしれません。

しかし私の愛車46年式箱スカは、もし安い駐車場があれば、走れなくなっても飾っておきたい位の気持ちなのです。

オーナーの佐藤様。なんちゃって走り屋だった私の夢も乗せて走り続けて頂ければ幸いです。

全国のSS関係者の皆様。是非本誌のクルマ自慢と私のコラムを販売室のテーブルにさり気なく広げておいて下さい。テレビでは「頭文字D」をBGMの如く放映しておけば、我々ガソリンスタンドが、街の車好きの聖地として復活すると思います。